



2021年1月号 (No.6)  
 公益社団法人 日本山岳会  
 The Japanese Alpine Club  
 東京都千代田区四番町 5-4  
<https://www.jac1.or.jp>  
 編集担当: 新井 梓

3カ月に一度発行する「山」YOUTH版では、YOUTH CLUB 世代の会員のご活躍、東京や各支部のYOUTH CLUBの取組みなどをご紹介します。話題のご提供や感想など、ご意見何でもお待ちしております！

## ヤマトモ 山歩きライター／打田<sup>えいち</sup>鏡一

# 登山の醍醐味は山を納得すること

群馬県の西上州を中心とした蕨山岩山の魅力を、周辺の立ち寄り処とともに楽しく紹介する新刊『続 蕨岩魂 いつまでもハイグレード・ハイキング』(山と溪谷社)が人気の山歩きライター・打田鏡一さん。本書をテーマに20年12月の「山の読書会」にもお招きしたことがご縁となり、飯能の柏木山を歩きながらのインタビューが実現しました。打田さんの「蕨岩魂」のルーツはどこにあるのか、お聞きしました。

### ◆「寂名山」への目覚め

僕は1946年に鎌倉で生まれ、中野区で育ちました。中野区は街中だから、小さな頃は自然志向が強く、山を一人歩きしたりするのが好きでした。

登山というものを認識するようになったのは、忘れもしない1969年10月30日。23歳のとき、秩父の熊倉山(1,427m)に、地図も食糧ももたず、軽い気持ちで行ったんです。ところが沢沿いのルートを尾根に乗り換えなければならないところで道を誤り、滝場であわや遭難という事態に陥りました。なんとか下山したものの、これが悔しかったのなんの。

当時の記録には、なぜ自分が間違えたのか、今後ミスしないためにはどうすればよかったのか、ぐるぐると悩んだ思考の跡が書き残されています。でもこれが、山をどうやって登るべきかという問いを僕に与えてくれた。地形図と山登りへの開眼の瞬間でした。

社会人になってからは、会社の先輩とよく山に行っていました。当時は横山厚夫さんの『登山読本』などを学習テキストにして、勉強していましたね。その先輩とは谷川岳東尾根や南ア鋸岳、北鎌尾根など、いろいろな山へ行きましたよ。でも北鎌から穂高へ下山したときに、途中で寄った山小屋の人の多さに辟易しちゃった。僕は賑やかな山より、静かな登山を楽しみたいんです。この時から、静かて人が来ないけど良い山(=「寂名山」)への憧れが始まっているのかな(笑)

その意味で、僕の山人生を決定的に方向付けた雑誌があります。元は「溪流」という誌名で出版されていた「Fall Number」という雑誌で、溪流釣り、沢の遡行、雪渓歩き



柏木山の途中にある、新刊の表紙写真を撮ったという岩。同じポーズで一枚！

など、あらゆるジャンルの山遊びのコツがまとめられた心躍る雑誌でした。このNo.35(1985年)で、新潟・川内<sup>かわら</sup>の山を特集していたんです。この頃すでに西上州仲間とも付き合いを深めていましたが、これで僕は決定的に、アルプスやら有名ルートではなく、知られざる名山の魅力に目覚めてしまった。

### ◆「西上州山仲間の集い」に参加

1970年代の終わり頃、登山ガイドブックや『行く雲のごとく 高畑棟材<sup>たかはたむねたか</sup>伝』の著者である浅野孝一さんとの出会いがあり、ご縁を深めました。ガイドブックの執筆をお手伝いさせてもらったりしてね。浅野さんとは最初、「西上州の秘峰」とも言われる帳<sup>ちようづけやま</sup>付山に行きましたよ。浅野さんを通じて、川崎<sup>まさお</sup>精雄さん、望月達夫さんらとも交流を深めたのですが、彼らは西上州の山々が好きで、「四十過ぎたら西上州だよ」なんて言われたものです。

この集まりには二木久夫さん、神原俊作さんら

も加わって、1979年11月、「西上州山仲間の集い」が発足します。文字通り、西上州の山々を愛する人々の集まりです。発足時の山行は7名で、僕の藪岩デビューは、この時に南牧村の立岩・碧岩に行ったこと。一緒に行った神原さんは、その後、僕の藪岩の師匠のような存在になりました。「西上州山仲間の集い」は、1990年までにはだいたい1年に一度のペースで集まり、小沢岳、桧沢岳、道場集落の奥の岩峰（えぼし岩など）、二子山北西稜などへ行きました。最近は数年に一度のペースですが、今も集まりは続いています。

この会のメンバーの蓄積が出版という形で世に出

たことは、それまであまり注目されていなかった西上州というエリアにとって、大きな出来事だったかもしれません。

◆本の刊行

まず二木さんが、現代旅行研究所という出版社から1981年に『西上州の岩山藪山』という本を出版しました。現代旅行研究所の代表をしていた野口冬人さんも「西上州山仲間の集い」メンバーです。第3回の集い（1981年開催）から参加した女性登山家の佐藤節さんも、『西上州の山と峠』（新ハイキング選書）を出版。僕は1979年に初めて「山と溪谷」の「ワンデイハイク」というコーナーで、まだ新人だった編集者の神長幹雄さんに書かせてもらったのですが、それがきっかけで執筆の仕事も増えてきて、1989年に「山と高原地図 西上州」を出すに至ります。彼らとの山行活動が、書籍や地図というアウトプットとして蓄積し、世に出ていったわけです。こうした「西上州山仲間の集い」メンバーの活動が、西上州の山の魅力を細く長く語り継いできたのかもしれない。

◆山をどう納得するか

なぜ西上州にこだわるか、と時々聞かれます。理由？ だって、面白いんです（笑）。岩と藪に満ちた山がたくさんある。整備されていないから、その分、山に真剣に向き合う。岩が剥がれないか、支点の木はちゃんと生きているか、この踏み跡は先へ続く踏み跡か。自分の五感を使って歩くということが、登山を面白くするんです。そういう登り方ができるのが、西上州です。

『続 藪岩魂！』でもご紹介していますが、山形県に摩耶山という山があります。海側のルートと山側のルートで極端に様子が異なる。僕はこの山を一度では登りきることができず、2度に分けて登りました。人によっては、ピークを踏んだ山になぜ2度も



打田さんの登山記録。小さなノートは山行中のメモ用。下山したら大きなノートに清書

**角打ち**  
**コーナー**

**前っちの山と酒**

「尾根越えて」という銘柄の酒がある。愛媛県の南予地方、西予市城川町の中城本家酒造が醸す酒だ\*。なんとも山や好きな名前である。由来を調べると、当地にあるお寺、龍澤寺（龍沢寺）を詠んだ句『尾根越えて 尾根のかたえの花の寺』から頂いたとのこと。龍澤寺はさぞ花が美しい寺なのだろう。愛媛県は四国山地より石鎚おろしと呼ばれる強風が吹き、冬場に適した気候である。冷酒・常温・燗酒と全てで美味しく、私のおすすめは45度上燗だ。燗した酒を平杯に注ぎ温度を馴染ませ口に運ぶと美味しい。酸はほぼ感じず、やさしい旨味ののった味わいは食中酒としても、酒単体でも満足がいく。南予には三百名山の三本杭がある。また、四国百名山、四国百山もいくつかあり、足を延ばした際には「尾根越えて」を呑み山談義で盛り上げていただきたい（ネット販売もある）。

（青年部・前川晋也）

※中城本家酒造（愛媛県西予市城川町）

**お願い** 引越しやその他の事情で登山道具が不要になった方は、YOUTH CLUBの共同装備に譲ってください（使用可能なもの）。お申し出は本部事務局まで。折返し連絡いたします。

いくのか、と思う人もいるでしょう。でも、僕の登り方は「どうやってその山を納得するか」なんです。納得できるまでは通いたい。

この前、西上州のmamシ岳に登りました。その下山の時に、下降する尾根を1本間違えたんです。これがすごくすごく悔しい。だから、そのことをしっかり記録に残してあります。もう一度同じルートを歩き、今度は予定のルートをきちんと下ってみよう、と思っています。「〇〇山に登った」で終わりではなく、地形を把握しながらその山を味わうことができたかが、僕にとっての登山の醍醐味でもあるのです。

◆ユース世代へのメッセージ

まず一つは、記録をしっかりとつけること。記録は登山者の財産です。僕が本を書けるのも、詳細な記録をつけてきたからですよ（笑）。

僕の記録の付け方は少し変わっていて、まず登山

中に小さなノートを持って、時刻ごとに気づいたことをメモしていく。山の様子だったり、その時の感慨であったり。概念図を書くこともあります。下山したら、そのノートを基に大きなノートに清書するんです。昔は山で撮った写真の現像が上がるのを待って、その写真を貼り付けながら清書ノートを作っていました。

それと、きちんと歩き続けること。体が資本ですから、歩ける体をつくること。僕は鹿屋体育大学の山本正嘉先生の登山理論に従って、毎月必ず、標高差3,000メートル以上は歩くようにしています。体力づくりもとにかく記録。下段の表のように、標高差や時間のみではなく、平均登降スピードや消費エネルギーも記録しています。

山は誰かと競う必要はありません。ご自分なりに山に向き合いながら、楽しんで登ってください。

(インタビュー 新井梓)

■打田さんの体力づくりのための記録 (ご本人提供)

日	山名	平均登降スピード(m/h)		積算高度		記録開始		記録終了		消費エネルギー(kcal)	最高高度		最低高度		所要時間	備考
		登り	下り	上昇	下降	高度	時刻	高度	時刻		高度	時刻	高度	時刻		
月1日	柏木山	388	383	260	247	158	14:05	0:00	15:38	466	303	14:33	152	15:03	1:32	単独。初生→
月2日	さんたんさん	296	271	274	280	166	11:20	1:55	13:47	647	303	11:55	164	11:21	2:27	Rと。初生→47
月3日	大高谷山	282	223	286	286	174	12:51	1:92	15:57	743	344	15:07	157	13:00	3:06	Rと。初生→薬
月7日	飯盛山	345	333	674	664	329	9:49	3:48	14:30	1328	818	11:39	301	9:57	4:41	単独。柏木→
月7日	北川の岩場	394	542	100	100	270	14:40	2:75	15:12	169	374	15:01	270	14:40	0:32	5日に見た岩場
月9日	次郎長尾根	309	239	351	339	155	9:32	1:92	13:02	897	317	11:56	155	9:32	3:30	Rと。初生P→
月10日	柏木山	279	420	164	146	130	11:17	1:44	12:41	377	281	12:25	128	11:18	1:23	ココと。初生Pが
月11日	柏木山	305	311	297	300	166	13:22	1:66	16:00	771	309	14:00	166	16:00	2:40	Rと。初生P→
月17日	柏木山	328	304	252	256	160	10:47	1:65	12:38	512	295	11:09	147	11:48	1:51	Rと。初生P→
月25日	柏木山	334	459	303	289	195	13:42	2:15	15:33	555	311	14:53	152	14:25	1:51	単独。西トレ
月29日	柏木山	312	541	273	255	188	15:58	1:95	17:32	480	299	16:58	145	16:31	1:34	単独。前回と同
				3234	3162											
月2日	龍崖山	504	508	328	329	142	11:49	1:56	13:15	493	244	12:15	120	12:27	1:25	単独。下P→龍
月6日	柏木山	498	392	249	239	149	13:42	1:59	14:58	403	311	14:28	147	13:43	1:15	単独。麓入口
月7日	柏木山	396	362	256	245	126	15:10	1:30	16:35	437	283	16:04	121	15:11	1:25	Rと。昨日と全く
月17日	柏木山	440	366	242	256	153	15:42	1:55	17:04	419	309	16:38	151	15:42	1:22	単独。前回と同
月20日	龍崖山	460	553	321	327	144	16:34	1:46	17:55	471	239	17:00	116	17:14	1:21	単独。2日と同
月21日	メツア外周コース	229	221	170	151	64	16:15	7:7	17:54	417	146	17:13	63	16:16	1:39	Rと。久々だが
月29日	柏木山	363	302	253	276	144	5:41	1:34	7:31	511	294	6:46	134	7:30	1:49	Rと。二子山の
				1819	1823											繰返執筆で山
月2日	武甲山	353	464	750	760	507	8:00	5:02	12:46	1366	1248	10:47	502	12:45	4:45	単独。一の鳥居
月12日	柏木山	265	240	237	245	145	8:49	1:49	12:01	773	305	10:59	141	8:54	3:11	YK取材。松本
月19日	龍崖山多峯主山	413	483	507	516	134	15:53	1:29	18:33	844	253	17:05	88	17:39	2:39	単独。下P→龍
月22日	龍崖山山頂往復	423	435	224	227	142	10:15	1:44	11:29	381	234	10:58	134	10:17	1:13	単独。下P→
月27日	龍崖山6の字	430	501	322	321	105	13:09	1:12	14:38	496	201	13:36	81	13:52	1:29	単独。八百堂
月30日	龍崖山	428	351	348	348	162	13:26	1:12	14:38	548	249	13:17	111	13:17	1:20	単独。前回と同

★☆録 打田さんおすすめ！「西上州デビュー5ルート」★

打田さんに、西上州のデビューにおすすめの5ルートを教えていただきました。行動時間、技術度などを総合的に加味して、容易な順に記載してあります（ただし、天候等により難度は変化しますので、きちんと下調べをしてからお出かけください）。

- 1 「笠丸山」新高畑橋（Pあり）→地藏峠→笠丸山のコル（西峰往復）→東峰→<sup>すまいづく</sup>住居付→新高畑橋
- 2 「立岩」線ヶ滝（Pあり）→直登ルート→立岩のコル→西立岩→<sup>いぬむき</sup>威怒牟岐不動→線ヶ滝
- 3 「四ツ又山・鹿岳」<sup>かなたけ</sup>大久保→天狗峠→四ツ又山→マメガタ峠→鹿岳のコル（一ノ岳、二ノ岳往復）→下高原→大久保（Pは下高原付近）
- 4 「シラケ山〜烏帽子岳」天狗岩登山口（P）→二股→ニリンソウのコル→天狗岩（展望台往復）→カラマツの鞍部→シラケ山→岩稜ルート→マル→烏帽子岳→マル巻道→横道→カラマツの鞍部→二股→天狗岩登山口
- 5 「大山・天丸山」天丸橋（P）→北尾根→大山→倉門山→天丸山→馬道のコル→馬道→社壇乗越→天丸橋

連載 6 里山を楽しもう



### 冬の里山歩きの楽しみ

国木田独歩「武蔵野」に「元来日本人はこれまで楢の類いの落葉林の美をあまり知らなかったようである」とある。雪山は良く口にされるが、落葉の山について語られることは少ない。ここに、冬の里山の楽しみについて語ってみよう。

#### ■地図とコンパスで里山探検

この時期の楽しみが一番は地図とコンパスを片手に里山探検である。落葉した山は尾根・谷の姿がよくわかる。いつもはひたすら登山道を歩き、展望の良いところで絶景などと風情のない楽しみ方をしているが、この時期は地図に表される尾根の形や、谷の形が見事に地図に表現されているのを観察することが出来る。地図の精緻さに改めて驚くとともに、枝尾根・支流が複雑に山を構成している様に、たとえ通いなれたわが山であっても新しい発見がある。下草も枯れているので、マイナーなコースも歩きやすい。

#### ■登山道にとらわれない里山

里山であれば、登山道にとらわれず、「今日はこの尾根をたどって頂に出てみよう」なんてことも出来る。特に雪国の里山ではスキーを活用してあっちの尾根・こっちの谷と縦横無尽に駆け巡ることも出来る。冬の里山通いは登山本来の未知の探求につながる素晴らしい山行といえるだろう。

この里山通いに欠かせない地図であるが、ぜひ地理院地図（電子国土 Web）の活用をお勧めする。赤色立体図をレイヤリングさせて、尾根・谷をはっきりとさせた拡大した地図をすぐ作成できるからである。オリジナル地図を片手に未知を求めて冬の里山に繰り出そう！

(東秀訓)

